



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 京都大学生物資源経済研究 1997, 3

ISSUE DATE:

1997-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/54249>

RIGHT:

京 都 大 学
生物資源経済研究

No. 3

1997 年 12 月

The World Food Shortage in the Year 2020 and the Needed
Agricultural Transformation in Japan Tsujii Hiroshi (1)

国有林におけるレクリエーション事業の日米比較研究 大田伊久雄 (29)

戦後東ドイツにおける土地改革・集団化と難民問題 足立 芳宏 (59)

E U市場統合下における牛肉サプライチェーンと
肉牛と畜産業の構造変化 新山 陽子 (77)

中国農業の環境問題と産業連関構造 加賀爪 優 (103)

「生物資源経済学研究」規程

1. 編集要領

(1) 執筆者

生物資源経済学専攻教官とする。なお編集委員会で特に認めたものも執筆できる。

(2) 発行回数と別刷り

当面年1回の発行とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈、それ以上は著者の実費負担とする。

(3) 原稿の採否の決定

原稿の採否の決定は編集委員会が行う。

(4) 著者校正

著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

2. 執筆要領

(1) 原稿の種類は論文と研究ノートの2種とし、著者は原稿にそれがどの種類に属するかを明記する。

(2) 原稿の長さは図表を含め、和文の場合は横書き400字詰めA4原稿用紙で、50枚以内とする。英文の場合図表を含め、A4用紙にダブル・スペース(28行、1行10-15単語)で、30枚以内とする。和文の場合英文サマリー(300単語以内)と英文題名を、英文の場合和文サマリー(800字以内)と和文題名を投稿と同時に提出する。原稿はコピーを2部作成し合計3部、編集委員長ないし副委員長に完成原稿で提出する。

(3) ワードプロで執筆の場合は、A4版用紙に40×40字で横書き印刷した原稿とテキスト・ファイル形式でセーブした3.5インチ・フロッピー(著者名、論文テーマ、ファイル名、使用アプリケーション・ソフト名、使用パソコン・ワードプロ機名を表記したもの)1枚を提出する。

(4) 特殊な専門用語・学術用語の他は原則として新かなづかい・常用漢字を使用する。

(5) 節項表示は

第1節、(1)、1)、aのようにする。

(6) 単位は%, kg, haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。

(7) 図表

1) 加工: 分かりやすいように加工し、刷り上がりを考慮して縮約に努める。

2) 用紙: 図は上質白紙を使用し、トレースするかレーザー・プリンターで印刷したものを提出する。

3) 図表題: 各論文ごとに各図表の上に、第1表、第2表、……、第1図、第2図、……のように番号を順番に付け、図表題を簡潔に付ける。各図表の下に出典ないし参考文献と、必要なら注を付ける。

4) 位置表示: 編集作業をスムーズにするため原稿の右マージンに図表の入る位置を示す。

(8) 注

1) 和文原稿の場合、本文内の関係箇所(注1)、(注2)、……と表記する。なお、原稿の右マージンに注の位置を示す。全部の注を各論文の末尾にまとめて記述する。

2) 英文原稿の場合、本文内の関係箇所(1)、(2)、……と肩書きする。なお、原稿の右マージンに注の位置を示す。全部の注を各原稿の末尾にまとめて記述する。

(9) 引用文献

引用文献を別記する場合は和文と欧文別にまとめ、和文は著者姓のアイウエオ順、欧文は著者姓のアルファベット順に下記例に従って、()内に文献番号を順に付けて、注の後に表記する。また、本文中の引用方法は次の例のようにする。 例: 著者姓(文献番号)

引用文献

(1) 並木正吉「農業保護の理由」『農業と経済』第51巻第11号、25-35頁、1985年10月。

(2) 堀田忠夫「米の消費・流通と寡占競争市場」(亀谷編著『アメリカ米産業の素顔』富民協会、1988年刊所収)。

(3) 増井幸夫『農村労働市場の計量分析』、大明堂、1995年2月。

(4) 南 亮進著『日本の経済発展』、東洋経済新報社、1981年12月。

(5) Bank of Thailand, *Quarterly Bulletin*, Vol. 27 No. 1, March 1984.

(6) Farrell, J., J. C. Ingram and J. M. Keynes, "Information and the Coase Theorem," *Economic Perspective*, Vol. 1, No. 2, 25-35 pp., Fall 1987.

(7) Geertz, Clifford, *Agricultural Involution*, Berkeley: University of California Press, 1966.

(8) U.S.D.A., E.R.S., *Rice, Situation and Outlook Report*, RS-53, September 1989.

付記

(1) 本規定の改定は専攻会議の承認を得なければならない。

(2) 本規定は1995年9月14日より実施する。

執筆者紹介 (掲載順)

辻井 博
大田伊久雄
足立 芳宏
新山 陽子
加賀爪 優

国際農村発展論分野
森林・林業政策学分野
比較農史学分野
農業組織経営学分野
地域環境経済学分野

『生物資源経済研究』第3号の編集を終えて

第3号を発刊する。編集委員諸氏の精力的な努力にも関わらず、昨年のスケジュールを大幅に遅れることになった。教官諸兄の合意を委員会が守れなかったこと、また合意にもとづき原稿をご提出いただいた諸氏に対してお詫びしたい。

結果的には、前2号に比べて論文本数は少ない。しかし、いずれも力作ぞろいであり、読者諸氏からのコメントを期待したい。

編集を終える12月、京都では地球温暖化を防止する国際会議が開催された。温暖化をまねく二酸化炭素などの大気中の濃度を安定化させるには、先進国全体で削減目標を5%におくことで合意された。これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄という20世紀近代文明が問い直されている。われわれは新しい研究編成において、再生可能な生物生産という産業に焦点をあてつつ、資源の管理のあり方を問い、環境負荷の少ない循環社会を考えようとした。われわれへの期待は大きい。

次号ではさらに多くの論文の投稿を期待しておこう。

1997年12月20日

編集委員長 村嶌 由直

『生物資源経済研究』第2号編集委員 (五十音順)

秋津 元輝	浅野 耕太	足立 芳宏 (副委員長)	小田 滋晃
加賀爪 優	中田 義昭	村嶌 由直 (委員長)	吉野 章

京都大学 生物資源経済学研究 第3号

1997年12月25日 印刷

1997年12月25日 発行

編集 京都大学大学院生物資源経済学専攻
生物資源経済学研究 編集委員会
電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院生物資源経済学専攻
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の「生物資源経済研究」を専攻紀要として刊行いたしました。
御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料御刊行の節は御恵贈賜りたくお願い申し上げます。

記

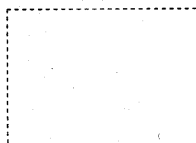
生物資源経済研究 第3号

1部

2
0
5
8
6
0
6

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻司書室 行



受 領 書

生物資源経済研究 第3号

1部

上記刊行物受領いたしました。

平成 年 月 日

住 所

機関名

氏 名



The Natural Resource Economic Review

Kyoto University

No. 3

December 1997

予測される西暦2020年の世界食糧不足と日本農業の改革の必要性
..... 辻井 博 (1)

Comparative Study of National Forest Recreational Activities
between Japan and United States Ikuo OTA (29)

Refugees and Land Reform in the East Germany
after World War II Yoshihiro ADACHI (59)

The Changing Structure of Beef Supply Chain and Cattle Slaughter
Industry in the EU Single Market Yoko NIIYAMA (77)

Enviromental Issues on Chinese Agriculture and
the Interindustry Relations Masaru KAGATSUME (103)

Natural Resource Economics Division
Graduate School of Agriculture
Kyoto University